

「令和6年度川崎市ホームレス自立支援施策推進市民懇談会」 摘録

1 開催日時

令和6年10月23日（水） 13時30分～14時40分

2 開催場所

川崎市役所第3庁舎18階大会議室

3 出席者名

別紙「出席者名簿」のとおり

4 内容（次第）

- （1）あいさつ
- （2）令和5年度の実績について
- （3）第5期ホームレス自立支援実施計画について
- （4）各関係機関によるホームレス施策に関する取組について
- （5）意見交換
- （6）その他

5 傍聴人数

1人

6 会議資料

- （資料1）ホームレスの実態に関する全国調査川崎市の結果
- （資料2）令和5年度ホームレス事業実績
- （資料3）第5期計画概要版
- （関係機関資料）令和5年度 NPO 法人ボランティアユニバース 活動報告

○ 事務局からの会議公開の確認

- ・傍聴人の確認 （1名の傍聴人を確認）

摘録

(1) あいさつ

加藤室長 開会のあいさつ。

(2) 令和5年度実績について

溝口係長 資料1, 2をもとに説明。

(3) 第5期川崎市ホームレス自立支援実施計画について

溝口係長 資料3をもとに説明。

榎本委員 概数調査の結果ホームレス数が減少しているのは分かったが、野宿以外のホームレスの総数はわかるか

森田課長 川崎も国もそういった人数はつかめていない。ネットカフェからしたら、利用者はお客なので、店舗への協力依頼は難しい。本人たちもセンターに入る意思はないため、全体をつかむのは難しい。県がネットカフェ利用者の実態の把握について、調査を進めていると聞いている。

村田委員 男性は人になかなか助けを求めない。わかりやすいチラシや目立つようなチラシを置いてもらったらどうか。

森田課長 ネットカフェなどにポケットティッシュのようなまず手に取ってもらえるものを置いている。

榎本委員 ネットカフェにいる人は若い人が多いと思うので、二次元バーコードを読み込んで、自分がホームレスなのか診断ができるものを用意してみたらどうか

高原委員 空き缶について、人からもらうのはいいのか

宝田課長 市の収集場所に出す前のものについては、渡しても問題ないと考えている。

高原委員 ホームレスに空き缶を渡している人から、ホームレスに対してチラシを渡してもらうのはどうか。

(4) 各機関の紹介

高橋施設長 コロナ以前と比較して、入所者は減少している。

自立支援センター日進町の利用の条件として、

- ・ホームレスを含む住まいの無い方
- ・自立の意思があること
- ・介護を必要としていないこと

入所までの流れは、福祉事務所で相談して同意のうえ入所となる

平均53歳。今年度は65歳以上が35% 75歳以上11%（年々高齢化）

入所者の中には、介護認定がついている人もいる。

今後、要介護が必要な人が増えていくと介護サービスを利用していく人も出てくるかもしれない。その場合には設備投資や介護体制の整備が必要になると考えている。

入所者のうち年金や就労など収入のある人は金銭の預け入れが必要。働け

る人は、働いてもらう。

入所者のうち80%が、入所後に受診を開始する人ため、医療需要は高いと言える。

退所後の行き先としては、アパート、社員寮に行く方が多い。次いで施設入所となっている。

及位施設長 下野毛は中原以北の入所者を受けている。

日進町よりも要介護状態の人が来ることが多い。

現在デイサービスを1名の方が利用している。日中活動先を確保していく。襲撃に遭った方も入所している。

日頃から巡回・アフターと連携して支援を行っている。

石田施設長 要介護者の受入れ3部屋。女性の受入れ9部屋、コロナ等隔離部屋3部屋
女性入所者は50～60代が多い。知的障害や発達障害を抱えている人が入所することがある。

20～30代の若年層の入所者も多い。

退所先としては、要介護者については介護施設が多い。女性はアパート入居が多い。

日中活動として公文学習を行っている。公文学習を行う理由としては、今まで満足に学習が出来ていない方が多かったため。

町内会と協力して8月末に夏祭りを行った。

介護サービス利用としては、デイサービス利用1名している。

施設職員は介護の資格を持っており支援をしているが入浴がしづらい人などの入用介助やデイサービスの利用など介護サービスを利用することがある。

木田相談員 平日は定期的な巡回を行っており、それ以外には、精神科医の熊倉先生との合同巡回、京浜河川事務所との合同巡回、地域の方、関係機関からのクレーム、情報提供への対応、状況把握など行っている。

またホームレスが相談したいと思ったときに、いつでも声をかけてもらえるように活動している。

渡辺相談員 センター退所後、転居先までの搬送や家具什器の購入同行といったものから、住所設定や郵便物の転送届なども行っている。それ以外には、法テラスや通院などの同行支援も行っている。

接触状況としては、3、4割しか接触できてない、接触が出来ていない人のうち、生活保護受給者についてはケースワーカーに確認をとり、それ以外の方は不在票などを出しているが、上手くいっていないのが現状。

深井委員 5月17日付の「タウンニュース」誌で川崎市のホームレス数が第4期計画中に半減したことが報告され、市の取り組みを評価する記事が載った。その中で相談員の木田豊一さんの献身的な活動ぶりも紹介されていて、頭が下がる思いだった。このような活動に感謝し、評価しつつも、対面での接触には、自ずと限界があるように感じる。非対面での接触機会を広げるべく、デジタル化を図る必要があるのではないか。デジタル庁が謳う「誰一人取り残さない、人にやさしいデジタル化」は、真っ先にホームレスに適用され

るべきものと考え、その観点から、東京都等とも連携して、国に対して非対面での接触機会のデジタル化を検討してもらいたい。また携帯端末を無料貸与したらいいのでは。

- 森田課長 デジタル化については、川崎市全体でも行っている。ネットカフェにいる人の多くはネットなどのデジタル利用をしているので、ご意見として承る。
- 木田主任 巡回で把握しているホームレスのうち、携帯電話を所持利用しているのは、5名程度。

(5) 各機関の紹介

- 京浜河川事務所 河川の管理を行っているが、法律に違反していても強制的な排除ができないため、巡回と協力して、居住者がゼロになるようにしている。
- 尾崎所長 河川の巡視員もいるため、日々見回りをしながら、荷物などについて適宜指導を行っている。
- 水曜パトロールの会 台風時には水位の上昇などの危険があるため、個別にビラ配り、注意喚起を行って、事前避難などを伝えるなどしている。
- 吉澤副理事長 水曜パトロールの会では、夜や深夜にビラ配布と食料の提供などホームレスの見守りを中心に行っている。
- 深夜に訪問する際には、相手が寝ていたら起こさず、生きているかの確認をしている。
- 食料配布する際には、人の状況によって量の調整している。
- 大切にしていることは、命を守ること人の尊厳を守ること。
- 台風が来たときはその前に回るようにしている。その後に変わりはないかを聞きに行く。
- 周りが見守りをする。不安になったときがいちばん怖い
- 結果的にセンターに繋がればそれがいいけど、まずは安心できる環境を提供する
- ボランティア 指定の日に、ホームレスに来てもらい食料配布を行っている。
- アユニバー 必ず開催することを心掛けています。
- ス 食料を受け取りに来る人たちが本当にホームレスかというところではなく、生保受給者など様々な事情の人がいる。
- 食料配布の場が情報交換の場にもなっている。
- 11:00～配布開始だが、早い人だと 5:30 ぐらいからきて周りの仲間と話している。
- 生活はできているけど 1 日何をしてよいか分からない人にとっての居場所や安否確認の場となっている。
- 食糧支援だけではなく年 2 回衣類の提供を行っており、今までは HL っぽい恰好だった方が、服を新たにすることで、ホームレスっぽさがなくなること自信を取り戻していたケースがある。

(6) 意見交換

- 榎本委員 8050や9060問題について、親の年金で生活していた層が親の死去

などにより、ホームレスになるなどが考えられるが、何か市で行っているのか

森田課長 だい J O B センターなどで受けている相談の中には、指摘のようなものも含まれている。ただひきこもっている人について、こちらからの働きかけが難しいため、新聞や郵便物がたまっているなど、通常と異なる状況について把握したら連携できるようにしている。

榎本委員 シェアハウスについて、把握しているか。

森田課長 シェアハウスについては、把握できていないが、第2種社会福祉事業の無料低額宿泊所については把握している。また無料低額宿泊所に該当しそうな施設については、生活保護の担当からの情報提供を受けて施設の確認等を行うこともある。

森田課長 精神疾患を抱えているホームレスについて、

こころの相 実際にホームレスのところまで出向いて面会をしたことがある。

談所 面会する中で、幻覚・妄想があつてそこにいることが分かったひともいた。

柴崎所長 区役所、室、警察と連携を取りながら病院の入院調整をして本人説得して入院したケースもある。

以上